

1. 件名：「浜岡原子力発電所 3号炉及び4号炉の地震等に係る新規制基準適合性
審査に関する事業者ヒアリング(158)、(191)」

2. 日時：令和6年1月24日(水) 17時00分～18時33分

3. 場所：原子力規制庁9階耐震会議室

4. 出席者

原子力規制庁：名倉安全規制調整官、佐口上席安全審査官、谷主任安全審査
官、鈴木安全審査専門職、井清係員、松末技術参与、山下技
術研究調査官

中部電力株式会社：原子力本部 原子力土建部 原子力土建部長
他8名

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

6. 提出資料

〈〈本年1月17日に受取済み〉〉

- ・ 浜岡原子力発電所 基準津波の策定のうち地震による津波について（本編資料）
- ・ 浜岡原子力発電所 基準津波の策定のうち地震による津波について（コメント回答）
- ・ 浜岡原子力発電所 基準津波の策定のうち地震による津波について（補足説明資料）

時間	自動文字起こし結果
0:00:03	規制庁地震津波審査部門のスズキですそれでは、今から山賀原子力発電所、
0:00:09	基準津波の策定のうち地震による津波についてコメント回答。
0:00:14	でヒアリングを行いたいと思います。
0:00:16	このコメント回答は、昨年ですかね。
0:00:21	の会合でプレート間と海洋プレート内の組み合わせの可否ということで、
0:00:26	の組み合わせの方針をですね審議をした際に少し基礎データとして、過去の地震というようなところのデータをまず整理した上で議論しましょうということで、
0:00:38	寄与してましたので、
0:00:39	今回コメント回答とそこに関係する本編集と補足しようと。
0:00:44	でありますので、特にそのデータを追加して整理してきた部分。
0:00:49	本編補足も同じものは結構ですけども、本編をそこでさらに細かい、
0:00:54	があれば、そういう部分を中心にですね、ご説明をいただきたいと思います。よろしくお願いします。
0:01:00	はい。中部電力の尾川です。
0:01:03	昨年 12 月 1 日の 1208 回審査会合で海洋プレート内地震の津波評価として、匿名性の評価方針に関して、いただいたコメントの回答を取りまとめましたので、
0:01:14	本日はその内容についてご説明をさせていただきます。
0:01:18	説明時間 20 分程度を予定しております。それでは担当の方からご説明させていただきます。
0:01:24	中部電力の永松です。
0:01:26	浜岡原子力発電所基準津波の策定のうち地震による津波について、コメント回答資料をご説明いたします。
0:01:32	まず 2 ページは、本資料の説明内容
0:01:35	3 ページは地震による津波のに関するコメント一覧表です。
0:01:40	コメントは 1 件ございまして、タイトルを読み上げますと、
0:01:44	プレート間地震と海洋プレート内地震の組み合わせ可否に関する基礎データの充実化となっております。
0:01:50	内容は後、後程ご説明いたします
0:01:53	4 ページは本日の説明内容です。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:01:56	前回会合では、海洋プレート内地震の津波評価及び海域の活断層による地殻内地震の津波評価についてご説明し、
0:02:05	海域の活断層による地殻内地震の津波評価に関してご理解をいただいた一方で、
0:02:10	先ほどお示した通り、1件、コメントをいただいておりますので、本日は、地震による津波の全体概要をご説明の上、こちらのコメント回答をご説明いたします。
0:02:22	5ページは目次。
0:02:24	6ページからは、地震による津波の全体概要です。
0:02:28	7から14ページは、地震による津波に関する各評価項目の概要。
0:02:34	15ページは、評価結果の一覧。
0:02:38	16ページ。
0:02:40	及び17ページには、水位上昇側の敷地前面と、水位下降側の4号取水槽地点に対して最も影響の大きいケースの、
0:02:49	SEの時刻歴は形をそれぞれ示してございます
0:02:54	18ページからコメント回答についてご説明いたします
0:02:59	19ページ。
0:03:01	は、コメント回答概要。
0:03:06	前回会合では、プレート間地震と海洋プレート内地震の組み合わせ要否に関し、
0:03:12	南海トラフ全域を概観して、プレート間地震とその他の地震の発生状況、
0:03:18	海洋プレート内地震の断層分布、断層タイプ等の整理を行い、説明することとのコメントがございました。
0:03:26	これに対するコメント回答の概要ですが、
0:03:29	前回会合では、
0:03:30	プレート間地震とその他の地震の組み合わせ要否について、
0:03:34	これらの地震が因果関係をもって同時発生し、津波が重なりあう可能性がある事象として、
0:03:41	(1)のプレート間地震に伴う応力変化による別の地震の発生。
0:03:47	(2)のプレート間地震の破壊の直接伝播による一体性のある連動発生の観点から整理いたしました。
0:03:55	今回のコメント回答では、このうちの(1)について、
0:03:59	南海トラフ及びその周辺の海域を広く概観して、プレート間地震とその他の地震の発生状況、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:04:06	その他の地震の断層分布、断層タイプ等の基礎データを充実させた上で、
0:04:11	プレート間地震とその他の地震の組み合わせ要否をご説明いたします。
0:04:17	20 ページには、ページの左側にの表に、プレート間地震とその他の地震の組み合わせ要否に関する検討の概要。
0:04:26	右側にコメント対応回答を体を付けて、示してございます
0:04:32	今回、充実化を実施します。(1)のプレート間地震に伴う応力変化による別の地震の発生は、
0:04:39	①プレート間地震とその他の地震の発生時間間隔の検討。
0:04:44	と、②プレート間地震による、その他の地震の断層活動への影響の検討の2項目に分かれており、
0:04:52	それぞれについて、基礎データを充実化してございます。
0:04:56	次のページから、まず、①について、その概要とデータ充実の内容についてご説明いたします。
0:05:03	またこれ以降のページでは、データを充実化したページの、右肩の部分に、充実化のマークを記載してございます
0:05:13	21 ページは、①の検討方針です。
0:05:16	前回回合と大きくは変わってございませんが、0 衛藤 2011 によると、巨大なプレート間地震が発生すると、それに伴う応力変化の変化、周辺近くの断層に影響し、
0:05:29	丸ではございますが、沈み込む前の海洋プレート、アウターライズ領域において、
0:05:34	大規模な地震の発生に繋がる場合があることが、事例とともに示されてございます
0:05:41	22 ページですが、
0:05:43	ここでは、国内外のM9 クラスの地震及び南海トラフの地震の事例に基づき、それぞれのプレート間地震発生後に発生する、その他の地震発生までの時間間隔を検討し、
0:05:56	可能な範囲で、断層タイプ等も確認いたします。
0:06:00	検討にあたっては、本震の波源域とその周辺会議を対象とし、特に南海トラフにおいては、プレート境界の宇和盤、下盤で発生する全地震の発生状況を概観した上で、
0:06:12	敷地に影響を与える津波を評価する観点から、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:06:16	左の表の津波マグニチュードスモールM-1、津波高さ 50 センチ以下、無被害のものを上回る津波を発生させるものとして、
0:06:27	右図の縦軸が津波マグニチュードスモールmと、横軸にマグニチュードRAをとった、関係図から読み取れる。
0:06:36	M7 以上の地震を、本震との関連の有無にかかわらず、抽出いたし
0:06:42	検討期間は津波評価の観点で十分に長い時間間隔と考えられる、プレート間地震後 10 年間といたします。
0:06:52	23 ページには、この補足として、津波の組み合わせを検討する、地震の津波は形を示してございます。
0:07:01	地震による津波では、敷地における影響が相対的に大きい地震を選定し、津波評価を行っており、
0:07:09	右の拡大図でご確認いただけますように、選定した地震のうち、17 断層以外のものは、津波マグニチュードM-1 である。
0:07:19	50 センチ以下を上回る水位変動が数時間継続していることが見てとれます。
0:07:26	また、24 ページでは補足といたしまして、近年のデータに基づく確認として、
0:07:32	マグニチュードラリRaと津波マグニチュードスモールMとの関係について、
0:07:38	気象庁地震カタログのデータを用いた分析を行いました。
0:07:43	右のグラフと表は、地震規模別に、地震の発生数と、津波を発生させた地震の津波マグニチュードを整理したものです。
0:07:54	こちらの結果からも、先ほどの 22 ページの地震規模と津波マグニチュードの関係のグラフと同様、
0:08:01	津波被害が生じ得る津波マグニチュードスモールM-1 を上回る津波は、
0:08:06	赤枠の破線で示す。
0:08:09	エラー10RA、マグニチュードM7 以上の地震においてのみ発生していることを確認いたしました。
0:08:16	なお、この表のうち、米印。
0:08:19	で示しますように、鳥島周辺海域におけるM5 から 6 クラスの火山性地震で津波が発生していることを確認してございますが、
0:08:29	これらは、通常の地震ではなく、火山性の地震であることが推定されており、
0:08:35	この地震の概要については、次の 25 ページに補足として、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:08:40	示してください
0:08:43	続いて 26 ページからは、検討方針を踏まえた検討の内容となります。
0:08:48	26 ページは、M9 クラスの地震に関する検討です
0:08:52	前回会合から変更はなく、本震と本震後最も早く津波を発生させたその他の地震との時間間隔は、
0:09:01	東北沖地震の事例では、プレート間地震の津波伝播が沿岸付近に達する程度の約 40 分ですが、
0:09:07	M9 クラスのその他の地震の事例では、数ヶ月から数十年の間となっており、
0:09:15	27 ページ。
0:09:17	からは今回充実化をいたしました、南海トラフの地震に関する検討の検討方針。
0:09:23	ここでは、南海トラフ及びその周辺海域において、本震後 10 年間における全地震の発生状況を概観した上で、
0:09:32	敷地に影響を与える津波を評価する観点から、M7 以上の地震を、
0:09:37	本震と関連している可能性の有無にかかわらず抽出し、
0:09:41	本震とその他の地震の発生時間間隔を検討いたし
0:09:46	検討対象とするプレート間地震は、左の図に示す、南海トラフの歴史地震の中でも、四角で囲っております。
0:09:54	特に歴史記録が残されている 1948、1100、1498 年目大地震、
0:10:01	1605 年慶長地震。
0:10:03	1707 年宝永地震。
0:10:05	1854 年安政東海、南海地震。
0:10:08	1944 年、昭和島南海地震。
0:10:11	1946 年、昭和南海地震。
0:10:14	土肥田島
0:10:15	ということで南海側にも前回会合と比較しましてナカなんかいかにも対象を拡大してございます
0:10:23	検討には日本の代表的な地震のデータベースを用いることとし、
0:10:27	緑色で示します。
0:10:29	歴史地震であるな、安政東海、南海地震以前の地震の検討では、古文書等の調査に基づいた、
0:10:37	日本被害地震総覧 2013 及び
0:10:40	日本被害津波総覧。
0:10:42	1998 を、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:10:44	オレンジで示します。近代的な観測記録が存在する昭和島南海南海地震の検討では、
0:10:52	日本の地震観測記録が網羅的に整理されている。気象庁地震カタログをそれぞれ用います。
0:11:01	28 ページからは、このうちの歴史地震に関する検討について示してご
0:11:07	28 ページには、左の図に示す、被害地震総覧に掲載された被害地震
0:11:21	この中から、左の図に赤枠で示す、南海トラフとその周辺海域内で発生
0:11:33	ます。
0:11:36	領域としては、前回会合から、南海側の方にも広げて調査をしております
0:11:48	このうち津波が記録されているものを青色で示してご
0:11:53	M7 以上の地震は、各本震後 10 年間でそれぞれ数個発生した記録が
0:12:00	本震と本震後、最も速い津波を発生させたその他の地震との時間間隔
0:12:13	30 ページには補足として、対象を一回り小さいM6 以上に広げて、同様の
0:12:22	本震と津波を発生させたその他の地震との時間間隔は、
0:12:26	M7 以上の地震の場合と変わらず、
0:12:29	数ヶ月から数十年となっております。
0:12:33	続いて、31 ページからは、
0:12:37	近代的な観測記録が存在する昭和島南海南海地震に関する気象庁地
0:12:47	31 ページの左の図は、
0:12:49	本震後 10 年間で記録されているM3 以上の全地震を示したものです
0:12:55	南海トラフ周辺では、
0:12:58	紫色から青色のプロット。
0:13:00	の、深さ 0 から 50 キロメートル程度の地震が発生しており

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:13:05	また、
0:13:06	中の赤色の 200 キロメートル程度の深さとなりますと、
0:13:11	伊豆小笠原海溝から節見込んだ太平洋スラブ内の地震と推定される地震が発生しており、
0:13:18	このような太平洋スラブ上面よりも深い地震を取り除いたものが、右の図に、
0:13:26	続いて 32 ページは、
0:13:28	本震 50 年間で発生したM7 以上の地震を、
0:13:31	本震と関連している可能性の有無にかかわらず、抽出し、図と表に整理した結果です。
0:13:38	M7 以上のその他の地震は、本震発生後 10 年間で 1 個発生した記録があり、
0:13:44	本震と本震を、最も速い津波を発生させたその他の地震との時間間隔は、
0:13:51	表の右に青字で示す通り、約 7 年の期間がござい
0:13:57	33 ページは、補足として、対象を一回り小さいM6 以上に広げて、
0:14:02	同様の整理をして、したものを示します。
0:14:06	M6 以上のその他の地震は、本震後十年間でそれぞれ複数発生した記録があり、
0:14:12	本震と本震後最も早く津波を発生させたその他の地震との時間間隔は、
0:14:18	南海トラフの歴史地震の事例と大きな違いがございません。
0:14:24	34 ページは補足として、
0:14:26	震源位置や深さがある程度正確に決定されていると考えられる、昭和島南海南海地震後 10 年間で発生したM6 以上の地震のうち、
0:14:36	左上の図にプロットしております。
0:14:39	南海トラフの陸域で発生した地震について、
0:14:43	基礎情報として、活断層調査等による関する既往知見を収集し、
0:14:49	断層タイプの確認を行いました。
0:14:52	その結果、右の表に整理しましたように、ほとんどの断層で、断層タイプに関する情報はえられませんでした、
0:14:59	黄色で示す通り、三河地震の断層タイプが逆断層であることを確認いたしました。
0:15:07	35 ページからは、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:15:09	②のプレート間地震によるその他の地震の断層活動への影響の検討に関する、
0:15:15	基礎データの充実化についてご説明いたします。
0:15:19	36 ページは、②に関する検討方針です
0:15:23	これはプレート間地震による、その他の地震の断層活動への影響検討として、
0:15:28	近年のM9 クラスの地震の事例として、
0:15:31	2011 年東北沖地震及び 2004 年スマトラ島沖地震後に、
0:15:36	は伴下場において発生した。
0:15:39	M7 以上の地震の断層タイプを確認の上、
0:15:42	南海トラフのババ下盤に分布する断層タイプを
0:15:46	メカニズム解及び海底断層分布に基づいて確認し、
0:15:51	M9 クラスのプレート間地震に伴う周辺地殻の伸張作用による、
0:15:55	南海トラフの宇和番下盤の断層活動への影響を検討して、
0:16:02	37 ページ、38 ページは、前回から変更ございませんが、それぞれ東北沖地震、
0:16:09	スマートラッド沖地震後のいわば下盤のM7 以上の地震の調査結果
0:16:17	39 ページからは、39 ページは東北沖の宇和番下盤の断層に関してですが、こちらも変更はござい
0:16:26	ました。南海トラフのメカニズム解に基づく断層タイプの確認についてご説明いたします
0:16:36	40 ページは検討方針です。
0:16:38	9 レイグへ通る 2014 等によると、
0:16:41	左の図に示しますように、南海トラフのトラフ軸付近の海洋プレート内部では、
0:16:47	地震のメカニズム解に基づき、
0:16:50	逆断層等の圧縮型の地震が発生していることが確認されているとされております。
0:16:56	ここでは、M9 クラスのプレート間地震に伴う周辺地殻の伸張作用による、
0:17:02	南海トラフの宇和番下盤の断層活動への影響オカ検討するため、
0:17:07	中央の図に赤枠で示します、南海トラフ及びその周辺会議の範囲において発生している。
0:17:15	地震のメカニズム解と、その断層タイプを概観した上で、
0:17:20	敷地に影響を与える得る津波を評価する観点から、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:17:24	M7 以上の地震の断層タイプを確認いたします
0:17:28	検討には、日本で発生した地震のメカニズム解が網羅的に整理されている。
0:17:33	F-netによる解析結果を用いることにより、今年、
0:17:37	検討期間は、F-netによる簡易解析結果が提供されている。
0:17:43	1997 年から 2022 年、
0:17:46	いたします。
0:17:48	41 ページは、検討の結果です。
0:17:52	左側の図は、
0:17:53	M3 以上の全地震の地震のメカニズム解を示したもので、
0:17:58	正断層型を
0:18:00	逆断層型を赤、
0:18:02	横ずれをグレーで表示しております
0:18:05	メカニズム解を概観した結果、
0:18:08	南海トラフ。
0:18:09	B、南海トラフ沖側。
0:18:12	C、日向灘。
0:18:13	D、水とそれぞれで、
0:18:16	地震の発生状況及び、発生する地震の断層タイプが異なっており、
0:18:21	地域性があることを確認いたしました。
0:18:25	次に、
0:18:25	右の図に示しますM7 以上の地震のメカニズム解を確認した結果、
0:18:31	M7 以上の地震は、南海トラフ及びその周辺海域ではほとんど発生して おりませんが、
0:18:37	Aの南海トラフでは、逆断層等の圧縮型の地震のみが発生していること を確認いたしました。
0:18:45	南海トラフにおけるこれら圧縮型の断層活動は、
0:18:49	図中に緑色の矢印で示します。
0:18:52	プレート間地震による沈み込み方向の伸長作用により緩和される方向 となり、
0:19:00	42 ページでは、
0:19:02	南海トラフ及びその周辺海域において、
0:19:05	M7 以上の地震がほとんど発生していないことから、
0:19:08	補足的な検討といたしまして、
0:19:11	F-netによるデータに基づき、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:19:13	地震のメカニズム解を地域別、地震規模別に整理して示します
0:19:20	表の上二つのAの南海トラフ及びBの南海トラフ沖側では、
0:19:26	正断層活動は低調で、
0:19:28	M6 以上の正断層型の地震も発生してございます
0:19:32	一方、表の下の二つ。
0:19:35	敷地から離れた椎野日向灘や、Dの伊豆藤区では、正断層活動は比較的活発で、M6 程度の正断層型の地震も発生する地域となっております、
0:19:50	43 ページからは、南海トラフの断層分布に基づく断層タイプの確認です。
0:19:56	付加作用が卓越する南海トラフについて、
0:19:59	宇和版は地殻が沈み込み方向に圧縮され、逆断層成分を持つ。
0:20:04	断層が広範囲に渡り認められるとされ、
0:20:07	下盤は薄いフィリピンかいプレートが比較的低角度で沈み込むことで、
0:20:13	プレート内部の領域に沈み込み方向に圧縮応力働き、
0:20:17	逆断層型の地震が発生させているとされ、
0:20:21	また、トラフ軸の沖合では、正断層地形は認められないと。
0:20:28	44 ページは、敷地周辺に関する確認の結果です
0:20:33	左側の図表に示します通り、
0:20:35	南海トラフの宇和番下盤では、敷地周辺の活断層評価結果からも、
0:20:41	逆断層等の圧縮型の断層が分布することを確認してございます。
0:20:46	これらの圧縮型の断層活動は、プレート間地震による沈み込み方向の伸長作用により、
0:20:52	緩和される方向となります。
0:20:55	一方、右側の伊豆藤湖周辺の領域では、正断層群である。
0:21:01	伊豆海嶺前期にふと断層体が分布しており、
0:21:05	この詳細について、次の 45 ページに示しております。
0:21:11	南海トラフでは、左下の地震波速度構造断面図のように、
0:21:16	薄いフィリピンかいプレートが、南海トラフに沈み込むのに対し、
0:21:20	南海トラフの東方に位置する伊豆島弧では、中央の下の断面図のように、
0:21:25	伊豆小笠原弧会、伊豆小笠原海溝の沈み込みに伴い形成された、厚イトウこ地殻が存在し、
0:21:33	その内部には正断層群である。
0:21:36	伊豆海嶺前期リフト断層体が分布します
0:21:40	水頭コウにおけるこれらの正断層群は、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:21:43	南海トラフの沈み込み体からは離れているとともに、
0:21:47	右側の地質断面図に示されるように、
0:21:50	伊豆小笠原海溝の沈み込みに伴う、
0:21:54	衛藤河内加来の背弧拡大によって形成されており、
0:21:57	南海トラフの沈み込みに伴う応力変化によって形成されるプレート境界の下盤の断層とは、
0:22:04	形成メカニズムが個
0:22:08	46 ページは、
0:22:09	今回のデータの充実化も踏まえまして、(1)について、応力変化による、別の地震の発生に関する、
0:22:16	津波評価上の関連性の記載を一部修正してございます
0:22:21	まず、①について、
0:22:23	国内外のM9 クラスの地震及び南海トラフの地震時によると、
0:22:28	プレート間地震に伴う応力変化の影響等により、
0:22:32	津波マグニチュードM-1、
0:22:34	被害程度部品会を上回る津波を発生させる。
0:22:38	M7 以上の地震が発生する時間間隔は、
0:22:42	2011 年東北沖地震の事例では約 40 分ですが、
0:22:47	M9 クラスのその他の地震や、南海トラフの事例では、
0:22:51	数ヶ月から数十年の間があることから、
0:22:54	応力変化の影響により、津波が組合わせる可能性は低いと考えられます。
0:23:01	②については、
0:23:02	付加作用が卓越する南海トラフでは、
0:23:05	宇和番下盤ともに、逆断層等の圧縮型の断層が分布しており、
0:23:10	沈み込み体の全域を破壊する巨大地震が発生した場合には、
0:23:15	津波に影響の大きい海溝軸付近のは伴下盤には沈み込み方向の伸長作用が働き、
0:23:22	これら圧縮型の断層は、プレート間地震に伴う応力変化により、
0:23:27	活動が緩和される方向となります
0:23:31	南海トラフの東方には、伊豆とこの背弧拡大に伴い形成された正断層群が分布しますが、
0:23:38	これらは南海トラフから離れているとともに、南海トラフの沈み込みに伴う応力変化によって形成されるプレート境界の下盤の断層とは、形成メカニズムが、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:23:50	これらのことから、プレート間地震に伴う応力変化によって、
0:23:54	江別の大規模な内陸地殻内地震、もしくは海洋プレート内地震が同時発生する津波評価上の関連性はなく、
0:24:02	(1)応力変化の観点からは、
0:24:05	プレート間地震との組み合わせを考慮する必要はないと評価いたしました。
0:24:12	47 ページから 51 ページは、(2)のプレート間地震の破壊の直接伝播による一体性のある連動発生について、
0:24:20	前回会合の資料を再掲して示してございます。
0:24:26	52 ページ、53 ページには、
0:24:29	プレート間地震と海洋プレート内地震の組み合わせに関する考え方について、
0:24:33	まとめを示してございます
0:24:36	前回介護から、評価の変更はなく、(2)の観点から、分岐断層は関連性ありと評価し、
0:24:43	プレート間地震の津波評価において検討を実施。
0:24:47	内陸地殻内地震については、分岐断層のように、破壊伝播はしないと考えられますが、
0:24:52	9 番の複雑な付加体内部の構造を考慮すると、
0:24:56	プレート間地震の破壊の一部が伝播する可能性は考えられることを考慮し、
0:25:01	関連性ありと評価し、津波の組み合わせを行うこととしてござい。
0:25:07	54 ページから 56 ページは、地震による津波の評価結果のまとめです。
0:25:14	コメント回答に関するご説明は以上となります。
0:25:18	他の絵本本編資料の方には、
0:25:21	プレート間地震、
0:25:23	ではなくて海洋プレート内地震の津波に関する、資料をつけてございます。
0:25:29	また、補足説明資料の方の、
0:25:32	家参照。
0:25:34	には、検討対象とする海域の活断層による地殻内地震の選定に関する資料がございしますが、
0:25:42	そのうち 40 ページ、
0:25:44	2、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:25:46	こちらは過去資料の一部修正という形ですが、活断層調査に基づく渥美半島沖の断層の認定について、補足情報をお付けしてございます。
0:25:57	本日のご説明は以上となります。
0:26:03	はい。規制庁鈴木です。ご説明ありがとうございました。
0:26:07	ちょっとまずこの中身の確認の前にですね、
0:26:12	ちょっと全体の資料構成というか、
0:26:15	ちょっとタイトルが基準津波の策定による地震の地震による津波について、
0:26:21	全般的なプレート間のこのとか、海域活断層とか海洋プレート内のこのものっていうのは、
0:26:27	多分それぞれにはもちろんあるんだと思うんですけどこの本編補足。
0:26:32	このタイトルの本編補足と言いつつ、これは海域活断層入ってないんですね今回その、
0:26:39	コメント回答をします。
0:26:42	プレート内それをもし正としたらそのプレ仮面プレート内の説明もします。
0:26:48	なのかいやそこはまた別なのか。
0:26:51	何かまとめ資料。
0:26:53	プレート間以外の、
0:26:55	基準津波の策定の地震による津波全体の、何かまとめ資料を今作ってきてるのか。
0:27:00	ちょっとこのあたりがですね、何かタイトルとタイトル本編資料補足資料というのと、なんかは、実際そこに含まれてる内容っていうのが、
0:27:09	という気しないような気がするんですけど、はい。
0:27:17	はい。中部電力の盛です。すいません資料の地震による津波についてという名称については前回審査会合で、この内容で説明させていただきまして、
0:27:27	そこに関するコメントということで、
0:27:31	コメント回答と本編資料とどう記載をしております。で、コメント回答の方では2ページにし、説明内容ということで記載させていただいております、
0:27:44	一応海洋プレート内地震、活断層については概ねご理解いただけたということだったので衛藤甲斐様プレートのイシイの方の検討方針に関連しているコメントだということと、組み合わせの先出にもなりますので、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:27:58	両者に関連するコメントというふうに整理しましてこちらのコメントとして、回答させていただいています。
0:28:03	ホームページ資料の方は前回海域の活断層の方をお出しさしていただいて特にコメントもなくご理解いただいたということだったらちょっと今回は概要だけ、
0:28:15	本編資料の方に活断層残してまして、具体の方は前回資料で出していたのをちょっと削ってしまったんですけどもパッケージとしてもう一度出し直した方が、
0:28:25	良いかということをやっと再度検討させていただきたいとは思っています。
0:28:30	タイトルと、本編補足等の補足もですね、補足海域の活断層の具体のところについて今回削ってきておりますのでちょっとその辺りの構成とした方が良いというのは、再検討させていただきたいと思っています。
0:28:45	規制庁鈴木です。はい。海域活断層内いく地殻内の、
0:28:51	いわゆる津波評価を入ってないじゃないかっていう側の趣旨ではないので、
0:28:56	多分今回コメント回答があつて、それに必要な部分というところで
0:29:03	本編の中からそれを抜き出しているっていうことだと思いますんで、
0:29:07	ちょっとそこは、
0:29:08	わかるようにしていた。
0:29:10	イマセ中身では全くないですよ。はい。
0:29:14	もう上で、
0:29:17	一応今回、実質的には、
0:29:23	中身として、
0:29:26	20 ページ以降ですね。
0:29:33	一応流れとしては、ス基礎データの充実化して、
0:29:37	それを元に何を言うかというところで、
0:29:40	一応 21 ページはあまり変わりがなくて、
0:29:45	20、2 ページかな。
0:29:50	前回あれですかねmなあと、ある程度津波の被害が考えられるナガエ村尾って言った部分を、ここ一応その、
0:29:59	そこで線引きすることについて、
0:30:02	津波被害のオカアンケートで、より、
0:30:06	ここでせよ、
0:30:08	聞くというところがわかりやすくしましたということかなとは思いますが。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:30:13	特にここは後の方針には直接案形、変わらないってということで、一応ここM7回、ある一種の
0:30:21	線引きだっていうところ変わってない中でいいですかね。
0:30:27	はい、中部電力の盛さんのご理解の通りでM7の前で線引きするところの根拠を少し追加させていただいたところです。で、すみません20ページの方でちょっと今回コメント回答。
0:30:41	との対応ということで記載させていただいてまして、
0:30:46	今ご指摘の①の方については、ちょっと今の根拠のところもそうなんですけどその前に、黄色のところですね、まず全体を概観するというのが
0:30:56	必要だということをご指摘いただいていますのでそこは先ほどのところのページでも、この方針として加えさせていただいています。その上で、根拠をつけた上で江村地震をまず、
0:31:07	絞っていくというようなプロセスで、だんだんスクリーニングしていくというような構成に変更して、
0:31:19	わかります。なんで、
0:31:20	以上でデータ後ろを見ていくと、結構小さい規模の地震とかもは拾ってはいますけど、母数としては拾った上で、
0:31:30	最後検討、影響の程度とかいう関連性を検討するときに、
0:31:36	ある一旦そのM7のところでもう1回線を引いて考察する。
0:31:41	その前の段階のものは広く、
0:31:44	拾いますっていう、そういう考えですね。はい。
0:32:00	はい。ちょっとこの津波マグニチュード43210-1ってのはちょっとあまりここは、すみませんあだし詳しい
0:32:07	とあれですけども、
0:32:09	頭な採泥た、疲労範囲、元になる地震ということで、これは、
0:32:17	27ページですかね。
0:32:21	これは左側に検討対象とするもとのプレート間地震ということで、
0:32:28	会合の方でもういわゆる地震動の方でも少し日向灘のところまで含めて全域で、
0:32:36	すぐ検討してましたよねということで、ここは共通的に2013、
0:32:41	言ってるようなところを拾いつつ、歴史地震と介護でもある、ある、ある意味戦前戦後みたいな、戦中あたりからっていう形で、
0:32:51	言ったかもしれませんが、1900年後半ですね。
0:32:54	この辺りからは少し観測記録の話もするというので、ここは、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:32:59	対応で少し事前やりとりさせていただいたようなところで、気象庁のデータをどこまで使うかっていうところで、
0:33:07	ここはCA昭和東南会場が何か言ってこっから使うということで、実際
0:33:13	で見ても当然これ以上前は不可能というか、そういうものだったという理解でいいです
0:33:21	はい。中部電力の永松です。今ご覧いただいた通りで気象庁のデータが使えるものとしては昭和、
0:33:29	からかなということでやらせていただきました。
0:33:40	あと
0:33:43	被害地震総覧はあるんですけども、これは、
0:33:47	この後整理はしたんですけども、
0:33:51	後々の関連性、
0:33:53	ですかね後で出てくる。
0:33:55	いわゆる、
0:33:58	まず、
0:33:59	30分40。
0:34:01	ページとカッチアノいや後半に行くところで、ちょっとどういうふうに使われ、
0:34:07	管理すごくちょっと基礎データとしては事実としてまとめたっていうことだと思っんですけど。
0:34:13	結局こちらの方の被害地震総覧ベースの検討ってのはどのぐらい最後の結論に、
0:34:19	来る。
0:34:20	だけちょっとここが、
0:34:22	データまとめて後ろに行ったところで、ちょっとすいません私の理解が悪いのか生井部になってしまったんですけど、
0:34:33	はい。衛藤。
0:34:35	0(1)の①の時間間隔の確認ということで沖。
0:34:42	はいやらせていただいてまして結論としては
0:34:48	地震、
0:34:49	被害被害地震総覧の結論としては29ページにございまして、M7以上の地震の時間間隔としては、数ヶ月から数十年の間があるということになってございます。
0:35:04	規制庁都築です。はい。これはここで閉じ分、これ以上出てこないということで、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:35:09	特にこれ一前回から、
0:35:13	もしいたしましたけど、これ最後の本震発生から最短のとか、
0:35:18	法人発生から最短地震発生までの時間差とか、
0:35:23	これは津波発生との時間差とかって持たしてますけど、
0:35:28	これはまあ、
0:35:29	何かアップデートというか前回から変わっ
0:35:34	たものはありますか。
0:35:36	全体傾向としてはもちろん大分長いって、
0:35:40	わかるんですけど、
0:35:44	はい。衛藤前回から、
0:35:46	はい。前回から大きく言いますと、確認範囲を、前はアノは何回。
0:35:52	と、敷地の周辺の波源は元気周辺に限定したところを、その範囲を拡大したということと、
0:36:00	当ショーワの地震については気象庁のデータを確認したということ、あと、
0:36:05	被害津波総覧の方も、津波の発生という意味で確認するようにしたということ、Dた自体拡充してあり、それぞれ、
0:36:14	もともと記載した発生までの時間間隔というものが短くなったものが何件かございます。
0:36:21	意見、お伝えした方がよろしいです
0:36:24	あ、いいですけど、ここを直接買ってなりますから介護であれ月刊地球でしたっけ括弧2、
0:36:33	別か何か安政の方は、高特集があるけれども、
0:36:36	数日後のこれぐらいは入っているのかとかっていう、
0:36:39	やりとりがあったと思うんですけど、それはあれですかね。どれだったかな。
0:36:44	これは30ページの方、何になるんですかね少し割と、数日後2日後かな。
0:36:50	そういうのがよくわかったってことですかね。29もそうです。中部電力の盛です。石渡委員から当日ご指摘いただいたのは昭和島南海の後の地震。
0:37:02	だったかと思えますんで、
0:37:05	31ページからの昭和島南海の地震の検討が始まるんですけど今回
0:37:11	前回被害地震総覧に基づいてたのを、気象庁のデータベースを使うような、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:37:16	変えておりますので大分充実化がデータとして漏れがないように、充実が図っております。で、
0:37:22	その上で 32 ページの方でまず、分 7 として、スクリーングをかけるとどうなるかというのをお示した上で、33 ページの方で、M6 にするとどういのが出てくるのかというのをお示して、
0:37:36	います。この中で衛藤当日ご指摘いただいたのが、左側の
0:37:43	ナンバー3 という地震、衛藤 1944 年 12 月 9 日に、7 日から 2 日後に起こっている地震と、
0:37:52	あと、ちょっと欄外になってしまうんですけども肥田下一番下の方ですね、なおの方で記載させていただいてます、1945 年 8 月 29 日の地震になります。で、
0:38:05	ちょっとこちら
0:38:06	月刊地球と 2000、2001 年、
0:38:09	2001 年の月刊地球の時点ではもう少し大きいマグニチュードになっていたようなんですけども、大分、気象庁のマグニチュードの見直し改定なんかもされてまして現時点では
0:38:19	5.3 という数字になっておりますので表からちょっと省かせていただいて、なお書きで下の方に記載させていただいております
0:38:30	規制庁スズキすみません、ちょっと規制気象庁の話と、被害地震総覧のすいませんごっちゃにしてみましたけど、
0:38:37	あと戻っ。
0:38:38	2930 ページの方はこれ最後、
0:38:43	どういうふうにていけばいいかと、地震だと、最短で、
0:38:48	2 日 5 津波だと 4 ヶ月、2 ヶ月、
0:38:53	ただこって最後なんか、地震だは最短ツジする津波だと最大幾つって最後、
0:38:59	それぞれの事実としては書いてますけど、
0:39:02	最終的な評価としては、
0:39:05	これ、津波、
0:39:06	の方を拾う。
0:39:08	で、最後結論してるんですかね。
0:39:13	津波が発生されたものについて、その間隔をっていう結論。
0:39:17	すかね、ちょっとその最後。
0:39:19	二つ並んでるんですけど、29 とか 30 年右側に、これと上の結論っていうのは結局最後どっちを採用してる。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:39:25	いうふうに見ておけばいい。
0:39:28	はい。中部電力の盛です。今回まず地震を見た上で、どういう日津波を発生させるつ地震があったのかというのをスクリングしていってますので、
0:39:39	整理としては右側の青い方を最後整理していくというふうに考えています。で、例えば今の 29 ページで見ていただくと、259 番の地震、
0:39:52	ちょっと九州と四国の間ぐらいの
0:39:56	深谷側にあるような地震が 2 日後に発生してるってことはあるんですけども、
0:40:02	あれ、津波評価上ターゲットとしているような、南海トラフとかその沖合で発生するような地震ではなくて津波を発生させていないような地震でもあるので、
0:40:12	もともと②番の方でも深井側の地震というのをちょっと省いてというか、津波評価上関係のある、トラフ軸付近の地震について検討しているという関係上、
0:40:22	青いほうの津波をどういうものが発生する地震なのかという点で最後整理していくということを今考えております。
0:40:35	はい。木津です。これ、
0:40:38	見方から、M7 以上のプレートが次発生後の十年間でそれぞれ 0 から 5 といって、
0:40:46	いって、だから慶長 1605 年慶長みたいなものが 0 で一番大きいのか。
0:40:54	どれか一番下の安政。
0:40:57	これがまごおってという意味でこれ 0 から 5 っていうことで、
0:41:01	これは、最後数ヶ月数十年期間があるっていうのはこれは津波のもので結論づけて書いてるっちゃうことでは五十嵐増田の考えというか、
0:41:10	記載の、サエグサのルールはわかり
0:41:14	M6 にしたとしてもそれは津波のところは 4 ヶ月から 10、28 年後だから、
0:41:21	同じってことですね。はい。
0:41:26	はい。
0:41:28	あとは、気象庁カタログなんで 31 ページ以降ですね。
0:41:36	はい。
0:41:37	これはさっき途中でありましたけれども、一応これは何で最初 2003 年気象庁のって気象庁カタログの、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:41:45	中でそれぞれ当該地震の一番最新というか改訂されてるものを採用して るってということで、はい。
0:41:51	ちょっと細かく1個1個、
0:41:53	一応そういう整理だということで、
0:41:56	はい。
0:42:04	ただ、例を見ると数時間ですね時間差として地震動って意味だと、33と か見ると、2時間3時間。
0:42:13	というようなものはあるにはあると。
0:42:17	はい。
0:42:22	あと34ページは、
0:42:26	これは結局、一応、
0:42:33	地震の耐種類としては何とか海洋プレート内から内陸地殻内かっていう ところまでは行けるけれどもまあ断層タイプまでは、
0:42:43	できれば支社調べてはっきりするものがあればということだったんです けど、一応これは海か三川地震あたりぐらいしか、
0:42:52	タイプまではっきりしなかったちゅうことですね。はい。
0:42:55	わかる範囲でなので、ないものは仕方ないと。
0:43:00	はい。
0:43:03	基礎データというか性地震の、
0:43:08	過去、いつどの規模どこで発生したって情報の整理だけですけど、
0:43:12	この辺は特に
0:43:14	よろしいですか。
0:43:16	また後ですみません戻ってきていただいても結構
0:43:21	はい。
0:43:22	よろしければ、
0:43:24	次何で35ページ以降ですかね。
0:43:28	基本的な方法、今は坂下盤の話は、これは特に、細かいところは少し修 正があるかもしれませんが、変えては、
0:43:38	いなく、
0:43:42	実施
0:43:43	際にはですね。
0:43:46	40ページからかな。
0:43:48	クレーム等によるとっていうところで、
0:43:51	決まっていますけど、これを一応領域、
0:43:56	B、C、Dに分けますっていう、この分けは、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:44:03	これは、
0:44:04	誰によるわけなんでしたっけ、ちょっとすいません、この辺が。
0:44:08	この南海トラフBフナダCヒラタわけて伊豆当行挙げてこれは御社のわけなんでしたっけ。
0:44:16	はい。中部電力永松です。こちらはある程度地震のタイプが違うっていうことですが分析の目的を考えまして42ページ。
0:44:26	の、左側に示しましたような形で当社の方で、
0:44:30	今回分類して整理をさせていただきました。
0:44:34	はい。
0:44:35	はい。吉成和気っていうことで。はい。
0:44:39	あとそれで、40、
0:44:41	1ページにM3以上っていう小さい規模のものと、
0:44:46	研究最後に村野以上にするともう僕限られてしまいますけどM7以上っていうことで、
0:44:52	あるんですけど、
0:44:54	これ、41ページのところで四角が二つあって最後A、
0:45:01	南海トラフにおける、
0:45:03	ていう、これら圧縮型の地震活動はプレート間地震の沈み込み方向の伸長作用による、
0:45:10	緩和される方向なんで、赤い逆断層、或いは
0:45:15	凡例でいくと、
0:45:17	横ずれ、泉方向圧縮の横ずれ、
0:45:21	です。
0:45:22	ここの昨今も最後の結論部分は、
0:45:27	当然こっち規模の小さい地震まで含めると青いその正断層型の図の中には左側残るんでここは、
0:45:33	最後、実際M3以上、一通りは書くんだけど最後の結論はこれM7の右側の方で出してるっちゃうことですかね。
0:45:45	はい。中部電力の盛です。はい。ご理解の通りですちょっとページというか、ページを開けた方がいいかなとちょっと今思っております。まず、左側の方でM3以上を概観するというので、
0:45:57	やっぱり小さい地震まで含めると、制約いろいろ起こっているなということと、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:46:03	ABCDというふうに分けましたけれども、南海トラフ等南海トラフオオキアガワで、あと日向灘辺り結構、正断層型の地震が起こっていたりだとか、
0:46:13	当日、審査会合当日でも議論があった伊豆小笠小笠原の方、
0:46:18	でも正断層型の地震が起こっていると、ちょっと地域ごとに起こってる地震が違うなということでこの辺りで
0:46:24	地域分けをしまして次のページで
0:46:26	どういう地震が起こっ。
0:46:28	ていうのがもう少し分析したというようなことをやっております、
0:46:31	このページでの結論としてはまずはM7 ということでこの右側の、
0:46:35	方で
0:46:37	数は少ないんですけども起こっている事実としては、逆断層型しか起こっていないというところがこのページの
0:46:50	はい。
0:46:53	ちょっと、そうですね、42 ページはその数が少ないのでっていうところで、
0:46:58	ここは1 段下げたっていう。
0:47:01	どうですかね。ここは前回も似たような考えで、
0:47:05	Aブロック、南海トラフでM7、
0:47:09	ていうと、かなり数が少ないのでということ
0:47:12	で、M6 できて一応これはそれぞれ、
0:47:15	比嘉ニイツ藤コウ当間一応ここは南海トラフ。
0:47:18	とその沖合とで、一応傾向を空けた。
0:47:57	一応、足して、
0:47:58	ただベースを瀬田してきたところはそんなに、あと伊豆遠くは少しセイダン総務の、
0:48:05	背景はありますけど、一応運者としては今、
0:48:10	出してきた前回から
0:48:17	圧縮は圧縮場で、
0:48:21	プレート間地震によって促進されるか緩和されるかという観点でいくと、
0:48:30	何か大きく加わっ。
0:48:33	ここの部分では、
0:48:37	一応全部拾ったけれども、
0:48:42	数としてはこの数できるってことですね。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:48:48	ちょっとこの事例でどのぐらい確定的な言い方をするかどうかっていうのはありますけど、はい。
0:48:55	今後、
0:48:57	データとしてはこれ以上のものは基本ないという前提では、あとみますけど、
0:49:13	ほか、
0:50:08	規制庁佐口ですけど、
0:50:11	ちょっと確認させていただきたいんですけど、事実関係だけで、
0:50:15	どう、
0:50:16	29 ページです
0:50:19	コメント回答も
0:50:23	これまず 1 ポツ、
0:50:25	D。
0:50:28	最後ですね。
0:50:31	幾つか、123 四つ、四つ五つかな。
0:50:36	の地震のそれぞれの地震後に発生したM7 以上の地震を
0:50:40	本震と関連している可能性の有無にかかわらず、抽出した結果ということで、
0:50:46	下に示されているんだ
0:50:49	どう。
0:50:51	これと、
0:50:53	28 ページの関係。
0:50:57	ちょっと教えていただきたい。
0:51:01	というのは、
0:51:04	例えばですよ。
0:51:08	宝永地震、1707 年の宝永地震で、
0:51:12	本震だけで、
0:51:14	違う、本震と 154 番ってありますけど、
0:51:18	これ 161 番って何で入らない。
0:51:21	使うとかですね。
0:51:23	あと 1854 年の安政東海、安政南海なんですけど、これ 266 番で終わってるんですけど、268 番とか 272-1 だかな。
0:51:35	これって何で入らないのかっていうのをちょっと教えてもらっていいですか。
0:51:40	はい。中部電力の永松です。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:51:42	江藤。まず、28 ページ、端的に申し上げますと、29 ページの病害エリア外だから、表に載ってきてないプロットに載ってないということなんですけども、
0:51:55	ちょっと位置付けとしましてまず 28 ページの方で、
0:51:58	地震カタログ津波被害総覧の方に、
0:52:02	載っているものを、左のエリアが全部載ってるものをこの対象期間でちょっと概観していただくということで、28 ページを作っていると。そこからさらに対象エリア、
0:52:14	等また対象地震を修正したものが 29 ページの
0:52:17	ような
0:52:21	すいません補足です。ちょっと 28 ページの検討対象領域ってのちょっと赤くし過ぎて、ここで検討対象にしてるみたいにならなくてちょっと見えてるところがミスリードしてますのでちょっとそこは修正させていただきたいなと思います。
0:52:34	まず 28 ページそんな地震等でまずカタログに載ってるもの十年間を全部載せたというのが右の表になってますんで、そこからエリアとを絞ったら、
0:52:45	エリアと地震規模オオキV29 ページになるというふうに関今作っておりますのでちょっとそこがわかるように掲載、記載をちょっと修正させていただきたいと思います。
0:52:56	はい。既設佐口ですということはこの 28 ページの方が間違いってというのが、
0:53:02	検討対象領域の中で、のみの
0:53:07	これリストではなくて、
0:53:09	何かその他も含めて、
0:53:12	全部とにかくこの
0:53:16	いわゆるその発生なんか放映とかいろいろありますけど、そういったもの。
0:53:21	発生から 10 年間の地震を、とにかく日本で発生したでもないんですよ。
0:53:27	これがやっぱり上の箱書きも含めてですね。
0:53:31	あくまでもこれ南海トラフ及びその周辺海域において書かれていますので、
0:53:38	南海トラフとかその及び周辺海域、
0:53:42	以外のものも、この 28 ページには載っているという

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:53:46	そういうことでもいいんですかね。
0:53:51	はい。中部電力の盛です。すいませんちょっと誤解、誤解というか
0:53:55	ちょっと記載の方が誤っておりますのでそこは修正させていただきます。先ほど実は申し上げた通りで、まず1回すべてを載せているというのが右の表と、左の図になります。で、
0:54:07	緯度経度が全然わからないもの等も結構あるので、そこも含めてまずはすべて載せてみたというのがこちらの外観の方になります。
0:54:19	はい規制庁佐口ですわかりました。事実確認というか事実関係は一応わかりましたそうするとそのあとの、
0:54:28	あれ。
0:54:30	32 ページとか 33 ページとかそういうのも含めて、
0:54:34	これよろしいですね。
0:54:37	いや、例えば 32 ページだと、
0:54:40	刀禰これもごめんなさい、さっきのさっきのページとこれ結局同じ、同じことを言うかもしれないんですけど、
0:54:49	あくまでも、
0:54:51	上に書いてあるのは、
0:54:54	1944 年から昭和島南海とそれから昭和南海地震後に発生したM7 以上の地震っていう。
0:55:04	ものを、
0:55:05	抽出した。
0:55:07	抽出した。
0:55:09	と言いつつですよ。
0:55:11	衛藤。
0:55:12	もう抽出したらこれだけ。
0:55:16	抽出は、
0:55:18	何かこう、
0:55:19	十年間とか、結局、
0:55:21	条件が何か、
0:55:23	あるのかないのかっていうのが、
0:55:25	多分これ十年間なんでしょうけど、下の図のキャプションを見る。
0:55:31	ではなくて、
0:55:33	抽出はとにかくしているんだけど、
0:55:36	ここに示されているのは、十年間だけ。
0:55:39	7 日。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:55:40	10年以降も含めて、抽出したんだけど結局これだけしかないのかこれ、どちらなんですか。
0:55:50	はい。ちょっと先ほどの話と若干確かにトーンが取れてなかったっていうところが、確かにありまして31の方は十年間の方で、概観していただいでるんで、ちょっとその辺もわかるように、
0:56:02	というかはい。考えて、修正させていただきます。
0:56:15	はい。規制庁佐口です。
0:56:18	少しそういった
0:56:21	書いてあることと、
0:56:23	何て言うんすかね。載せていること野瀬整合性といいますかね。
0:56:26	そういうのをちゃんと確認をしていただきたいと。
0:56:29	いうのと、
0:56:31	特にこの、
0:56:32	30、
0:56:37	1ページとか、これ以降の、
0:56:39	比較的新しいものなんですけど、
0:56:43	これは、
0:56:44	確認だけですけど、
0:56:46	例えば、
0:56:47	気象庁カタログとかあって、幾つかあると。
0:56:52	使うって誰だ。
0:56:54	もあるんですけど、
0:56:55	これ震源のメカニズムとか、
0:56:59	用語ですね。
0:57:00	逆断層型なのか正断層型なのかそういったそれぐらいの情報っていうのは、
0:57:06	わからないんでしょうか。
0:57:08	32ページも33ページもそうなんだ
0:57:16	はい。中部電力の森です。31ページの気象庁の震源、震源データベースの方を使っております。震源データベースも震度ベッド別、他のデータベースもあるんですけども基本的には
0:57:29	地震の規模と発生位置、
0:57:33	あと津波が発生したかどうか、津波では、先ほどの津波、マグニチュードですね、が比較的新しいものについては載っておりますけれども、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:57:43	断層のメカニズム等の情報については載っておりませんのでそちらはちょっと掲載していないと。で、F-netの方でかなりまとまってきたところがあるのでそちら、
0:57:53	後段の検討ではそちらのメカニズム解を使ってある部分は、そちらで検討しているというもので、
0:58:03	はい規制庁佐口でそれが今、
0:58:06	おっしゃられたのが 34 ページ。
0:58:09	いうところの、
0:58:10	かな。
0:58:11	違うの。
0:58:12	いや、ごめんなさい、活断層調査これF-netじゃなくて
0:58:21	ね活断層、活断層調査、まあまあいいんですけどわかりました。いずれにしても、
0:58:26	ちょっと、
0:58:27	33 ページとかで、
0:58:29	ここはショーワと言いながらやっぱり古すぎて、
0:58:33	そうですか。
0:58:35	気象庁の方なんか、地銀一元化震源カタログみたいなものがあったような気もするんですけど
0:58:40	これはそういった
0:58:42	断層タイプとか、
0:58:44	なんかそういうものまでは、
0:58:46	なかったという
0:58:47	わかりました事実関係を確認できまし
1:00:17	規制庁昨日ももう1、
1:00:19	前確認なんですけど、ちょっと先ほど、
1:00:22	申しあげました 34 ページなんですけど、
1:00:24	これって、
1:00:26	ごめんなさいね。
1:00:28	当然、
1:00:30	プレート間地震と海洋プレート内地震の組み合わせ要否に関する
1:00:34	基礎データの充実化ということなんで、
1:00:36	どう、
1:00:38	ここに、
1:00:39	載っているものは、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:00:41	海洋プレート内、
1:00:43	地震の話なんですか、それとも、
1:00:46	いわゆる
1:00:47	内陸地殻内地震の話なの。
1:00:50	がどちら。
1:00:51	でしょうという
1:00:52	こと。
1:00:53	内陸地殻内地震であれば、
1:00:57	なぜここに入っ
1:01:00	たかなという気がしたんですけど、ちょっとその辺りの関係も含めて教えてもらって
1:01:10	はい。中部電力の盛です。こちらの審査会合の中で陸域で採用な地震については昔の地震でも、断層情報が、
1:01:19	わかるものがあれば、
1:01:23	基礎情報として載せるようにというご指摘も踏まえて実施したもので、比較的その深さがわかるという意味で 33 ページのその章は、
1:01:34	の地震の中で、M6 以上でピックアップされてきたものの中で、ちょっと海底についてはなかなかわからないと思うので陸域にある、
1:01:44	震源が浅い地震については、
1:01:48	まず、地震の種類によらず、まずピックアップしてみたというのが、34 ページになります。その中で、
1:01:56	個別に地震本部のホームページなんかとか日活なんか当たりまして、どういう断層情報があるのかないのかというところを調べたページになり
1:02:12	規制庁佐口です。わかりました。あくまでもこれは南海トラフ周辺で、
1:02:18	わかるようなものは、もう一応確認をして、
1:02:22	載せていると。
1:02:23	そういうことです。
1:03:19	計上する時ですけど、
1:03:20	会議の時に出てた南海地震 12 月 7 日の 2 日後 12 月 9 日に部 6.3 の地震が伊豆半島の南出っというのが、すいませんこれ。
1:03:32	33 ページの 3 番。
1:03:34	日付からするとそれが該当して、
1:03:38	それからその次の年の 8 月 29 日 M6.4 というのが、御前崎の南方あたりで、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:03:46	というのは、これは 8 月に次の年の 8 月 29 日。
1:03:53	これワダカラーAと実際は、
1:03:57	新しく気象庁のデータを見るとそれは該当がナカ。
1:04:02	もしくは何か規模がはず。
1:04:04	なんでは 0。
1:04:05	ます。
1:04:06	これか。それが下のなお書きのやつですか。
1:04:09	かな、一応日付からすると。
1:04:14	はい。
1:04:16	私も、我々も気象庁のカタログベースでちょっと確認してアノないなということで探していたんですけども、該当する規模の大きいいて日付学会とするものっていうのがこれ、
1:04:28	Sという。
1:04:29	ナカザキの南方辺りでちょうど南の方にずっといたあたりでって言うてるのがそうですねだから新島神津島近海。
1:04:39	んと日付は一致するかなと。
1:04:44	やっぱこれ最新化ってということなんですか。
1:04:46	はい。中部電力の盛です。具体的な位置は今のこの図の中でいうと 35 番のもうちょっと左側にいった南海トラフの白い点々と交わらないぐらいのところになります。で、
1:05:00	気象庁の方で 2003 年ぐらいに改定をしていった時の改訂の理由で 1 度の出し方を変えているということと、あわせて誤記なんかも修正しているとかとか書いてあったりもするのでちょっと、
1:05:12	実際前がどうで、どういう理由で変わったかっていうところはちょっと終えてないというのが現状です。ただ、
1:05:19	地震本部の資料を見ても、2001 年間より前の資料では、もう少し大きい規模で載ってたりもするので、気象庁がナカイテしたというのは何か間違い、単に誤記で実験値が間違っているというよりは、
1:05:33	気象庁が改訂をした結果今こうなってるのかなというふうに推測はしております。
1:05:43	わかりましたので、2004、1945 年 8 月 29 日の方は、
1:05:48	月刊地球が間違っただけその当時は正しかったけど気象庁が
1:05:53	最新化したときに伺ったのかそこはちょっと定かではないけど、いずれにしても、
1:05:57	最新のものと。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:06:00	こうなりますとですねはい。
1:06:22	正常スズキです。ちょっと今のデータ充実か。
1:06:27	したところのすみませんちょっと前の、
1:06:29	そのページ 23 ページの、
1:06:33	C、Dちょっとは形が、ちょっとこれもうプレート内との組み合わせ要否に関する基礎データの充実化っていうのが減ったんです
1:06:42	ずつ多分海域活断層の方は、いずれにせよその連動型の方で組み合わせるし、
1:06:50	応力変化みたいなどころでは、プレー、海域活断層もプレート内もなく、統一的に
1:06:57	組み合わせなくて良い。
1:06:59	ということでどのみち組み合わせるから減ったは一応プレート内っていう形で、
1:07:04	書いてると割り返してるんですけど、当然は形がないのはもちろんわかってるんですけど、
1:07:11	ここの位置が何かプレート間地震とその他の地震の発生。
1:07:18	間隔或いは検討ということで、
1:07:23	ここはプレート内の方は簡易評価をしていって、
1:07:28	出せないから、
1:07:31	特にここは、
1:07:33	言及せず、公営 17 は少し短いんですけど言ってるけど、プレート内の方は、
1:07:41	だけは出すまでもなく、
1:07:45	これは少なくともM-150 センチが上回る水位の変動時間が、
1:07:50	数時間継続してるっていうのは、これはプレート内については、この辺はどういうふうにかけて
1:07:58	け。
1:08:03	はい。中部電力の盛です。こちらのスライドは、
1:08:08	1 ページ前の、
1:08:11	余りに小さいものについては除外するところの補足、こん根拠とか補足として使っているものです。で、
1:08:19	上の箱書きのところちょっと丁寧に読まなかったかもしれませんがけれども地震による津波の評価だと、相対的に大きいものを当然選んで行っていると。で、組み合わせのところでは今の活断層の方を組み合わせるこ

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	とにしているという、その組み合わせ対象がどの程度の規模感なのかというのをお示しする。
1:08:35	ものになります。で、
1:08:39	拡大したもので 0.5メートルという閾値を載せてますけれども
1:08:45	松波マグニチュードちょっと狭いの説明きちんと、
1:08:48	足りてないところをもう少し書きたいと思うんですけど沿岸域のどこかの一番高いところ、
1:08:54	が 0.5メートル上回っていれば、-1 が 0 になるというような指標ですので、どっかのタイミングの時空間のどっかのタイミングで 0.5メートル回ってれば、
1:09:05	前の日を超えてくるというようなものになります。なので常に
1:09:10	ピークはもちろん、0.5メートル上回っているということと、時間は計を見ていただいても、長い時間ずっと 0.5メートル余ってるようなところの波を組み合わせしていくということになっていますので、
1:09:22	足切りとしては十分
1:09:24	小さいところまで見ているということの補足として使わせて、説明として使いたいと思って掲載しているものになり、
1:09:40	すいません 1 スズキ、これ多分 22 ページで言っているところは、この後も F-1、
1:09:48	津波のうち全部 -1 を上回る堰堤マグネット 7 以上ですって言うところは、あまり個数時間継続とかそんなのはあんまり関係ないですよね。
1:09:59	ここだけちょっと何か数時間継続している 17 継続してないとか、
1:10:04	ちょっとその辺の話が出てくるのがぴんとこなかった。
1:10:08	田野高。
1:10:11	ここのページだけ、何を言おうとしてるのか、ちょっともう一度すいません。
1:10:17	これを出して、プレ海域活断層のものを出して、
1:10:20	プレート内はもちろん研究ないわけですよ。17 断層以外はって言うてる。
1:10:26	俺の趣旨は、ちょっと何なのか。
1:10:31	はい。中部電力の盛です。すいませんちょっと説明が足りてないのかもしれない。衛藤。
1:10:38	例えばなんですけど 23 ページの 17 断層 1 点。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:10:47	津波高 1.5 メートルですので、これでも 0.5 メートル超えてくるような発見にはなっているんですけども、
1:10:54	こういうピンと 1 回だけはねるようなものでも、
1:10:59	波の到達時間によっては組み合わせたらこっちの方が大きくなるっていうことがあるんじゃないのかというようなご指摘も
1:11:07	コメントもあり得るかなということを考えまして、基本的に今、組み合わせ対象としているものっていうのは、
1:11:16	0.5 メートル小さいということではなくて常に上回ってますので、どこかのタイミングでプレート間とは必ず重なるような波を考えている、いますということの説明として加えさせていただいているというものです
1:11:28	津波の前のフジイの 50 センチ波っていうのは、この A-17 よりももっと小さい波になりますので、組み合わせ、とても組み合わせ対象として選んで、選んだら何かこっちが大きくなるというものではないということをちょっとお示したいと思って、
1:11:41	エラー記載してるんでちょっとこの位置に置くのがいいかどうかということ
1:11:46	少し考える必要あるかなと思って
1:12:51	これ、23 ページの図で、何か数時間継続しているで止まっていますけど、
1:12:56	結局何これで。
1:12:58	みたいなのは、結局日に替えて、
1:13:05	前の 22 ページですね、これは別にどこかで一瞬でも 50 センチ超えれば、
1:13:11	っていうシムラ選んでるんですよ。
1:13:14	この線引きイムラの線引きでやっておけば、
1:13:18	いう部分ですよという、
1:13:22	ことの補足に使ってるんですよ。なんでそれが多分これけ、数時間連続して継続してますとだけでそれで、これ前後と何の関係があるんだっていうところがすみませんそこがピンとこなかったんで、
1:13:35	使うんだったら、これを示して何を言いたいのかはっきりしてくださいっていう。
1:13:40	ことなんですけど。
1:13:42	使うなら、
1:13:43	その時ちょっと数時間継続っていう言い方が、何か根拠としていいのかどうかはもっと考えていただくとして、
1:13:50	ちょっと何かここだけ。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:13:51	んとこなくて、なので、ちょっと初めその用途がはっきり私は理解できてなかったんで、あれプレート内どこ行ったんだっけっていう
1:14:00	最初聞いた次第です。はい。
1:14:03	これで有働図を使って、多分 22 ページの、何かスクリーニングの高齢者を言いたいんだったら、
1:14:09	ちょっとちゃんと結論まで書き切ってください。
1:14:12	はい。
1:14:35	原子炉規制庁の山下です。ちょっと 22 ページ目のところで教えてください。
1:14:40	これ、この関連の前のヒアリングの時にもお聞きしたと思うんですけども、今回
1:14:47	M7 以上のものを抽出していくっていうお話だったと思うんですけど。
1:14:53	これを根拠にしているのが 1000、かなり古い。
1:14:59	参考文献に基づいてて、やっぱり今、今、一般的に津波が起こると言われるのは、6.5 以上って考えられてるんですけど、その 6.5 から 7 の間を
1:15:10	この件、今回の検討で省ける理由みたいなのがありましたら教えてください。
1:15:22	はい。
1:15:23	衛藤。津波の。
1:15:25	50 センチ以下の、確かに非常に小さい規模ということでは 24 ページの方に補足的に、最新の気象庁のデータに基づいた分析をですね、
1:15:35	22 ページのところという形で今回つけさせていただきましたけども、
1:15:40	津波マグニチュード、
1:15:42	M-1、
1:15:43	の規模、
1:15:45	今、山田さんがおっしゃったような希望でも津波が起こるといものが確かにこの
1:15:50	-1 の方だと確認されているんですけども今回スコープとする、それを上回る規模としては、
1:15:57	M7 クラスを見とけば、十分に、
1:16:00	ないかということで、今回補足の情報として最新のデータでもそれが確認できたのかなというふうに思っております。
1:16:08	つまり、M6.5 から 7 ぐらいの地震だったら、もう 50 センチ以上の津波は発生しませんよっていうことが、何らかのデータからわかってるっていうことですか。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:16:23	はい。中部電力の盛です。24 ページ、ちょっと表が見つらいところもある かもしれませんけどこちらの
1:16:32	右の方に書いております気象庁の地震カタログで、
1:16:36	最近のデータということで
1:16:40	津波マグニチュードと地震のマグニチュードが併記されている、全デー タということで 1989 年から 2021 年までの
1:16:49	左下の方にある、この海域で起こってるすべての紙について整理したの が右の
1:16:56	図表になります。で、
1:17:00	グラフの左の方から 35678 ということで地震規模ごとに、
1:17:07	津波マグニチュードを色分けでバーで示しております、地震数自体は どんどん当然減っていくんですけども、その中で、
1:17:16	津波マグニチュードが 0 以上の青色の割合っていうのが、ろま名倉以 下、7、8 では出てくると。
1:17:23	というようなものになっております。ちょシマ気象庁の震源データベースに 基づいてということでありましてけれども傾向として
1:17:32	昔の知見であります通り、イマムライイダのスケールの関係が成り立っ ているということを確認してござい
1:17:41	ます。
1:17:43	これは日本の全データを抽出したら、そういう結果になったっていうこと で、
1:17:50	わかりましたありがとうございます。
1:17:51	この、この 24 ページ目の右上図にあります。
1:17:57	M6 クラスって書いてる上に、グレーのバーがあってそこに 6414.9%っ てあるんですけど、
1:18:05	これは、
1:18:07	津波マグニチュード、
1:18:09	-1 というのが、-1 の値が 641 件ということですよ
1:18:16	ではなくて、
1:18:18	はい。中部電力の永松です。
1:18:21	衛藤。
1:18:22	その内訳ぐらふうに使っているデータがですね 1 表の方に書いてござい まして、641 の方が、折れ線グラフに対応します地震発生数、すべての 地震発生数クラスの 601 そのうち、
1:18:37	津波が発生したものが、そのうちの 4.9%で、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:18:41	その 4.9%はすべて津波マグニチュードM-1、50 センチ以下のものであるということを付言して、なるほど、つまり 50 センチ以下のものは、今回は無視したっていうことでよろしい。
1:18:54	は、
1:18:55	どうすつつんそうすると、50 センチ前後しても、基本的に影響しないっていう。
1:19:02	ことでいいんです
1:19:07	何でしょう、この審査とかの時に、50 センチの誤差は、
1:19:12	特に気にしなくていいよっていう、
1:19:15	ことなんだよ。
1:19:17	はい。中部電力の盛です。ちょっとその辺りが先ほど 23 ページでご説明したかったことがきちんと説明できてないのかなというふうに思っています。もともと、
1:19:26	50 センチでも、
1:19:28	本当に組み合わせれば大きくなるんですけどもそれ以上のものをまず、地震より津波で選んでまして、それとプレート間を組み合わせるという方針にしておりますので、その観点で小さいものっていうのをあえて選ぶ必要がないというふうに考えて、
1:19:41	はい、わかりましたありがとうございます。あともう 1 点ちょっとお聞きしたいんですけども、
1:19:46	何ページ。
1:19:47	29 ページ目とかからの先ほどの、
1:19:51	過去の事例の選択だと思うんですけど、
1:19:56	日本の事例のことはわかりましたというところで、こういう南海トラフに類似するような、何かテクトニクス的な、類似してるような海外事例とかっていうのは、
1:20:09	わかってるものでしょうか。
1:20:19	はい。中部電力の盛です。以前海洋プレート内地震の検討をするときに、同じような海外の類似事例、
1:20:28	同じような環境のプレート、
1:20:30	っていうのはないのかっていうことを検討はしてましてで、
1:20:34	ちょっと今日の補足、資料を、
1:20:38	でいきます等、
1:20:46	3、ちょっと結果なんですけど 33 ページの方に載せては、
1:20:54	いるんですけど、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:21:00	なかなか類似若いプレートで、かつ沈み込み速度が遅くてっていうところで類似してるっていうところをいろいろ見ていくと 18 番で書いてる Cascadia のプレートっていうところ
1:21:12	一応類似していると言えれば類似しているってことを選んでいます。ただ、あんまりこのプレート自体が大きいプレートではないので、そもそも大きい地震が発生するような、
1:21:22	ところではないので、ちょっと今回のプレート間地震が起こった時にどうい地震が起こるのかというような検討の中でちょっと参考にできるような場所ではないかなというふうには考えて、
1:21:32	うん。
1:21:33	なるほど。そうなんですね。
1:21:36	わかりますありがとうございます。
1:21:38	今ってこの、
1:21:40	なんです。
1:21:41	発生時間間隔関係で、今、確認されてるってこと
1:21:45	その次の②とか、
1:21:48	一緒に、
1:21:49	下、
1:21:50	来ても大丈夫。
1:21:53	今、時間発生間隔、発生時間間隔のところだと思うんですけど、その時でも聞いていいですか。はい、ありがとうございます
1:22:04	例えば 41 ページ目なんですけども、これも今のちょっとお話にってるかもしれないんですけど、
1:22:10	これ、1997 年とおっしゃいましたっけ。2007 年、何年からでしたっけ、データを収集してるのが、
1:22:18	1997 年ですね、から 2022 年の間で 25 年間のデータっていうことなんですけど、やっぱりその 2、25 年間のデータだけでいろいろ議論する難しいな。
1:22:29	とやっぱり思って、一つまず確認なんですけど、今回 M3 以上のところを 40 ページ目の左の方に載せていただいでて、
1:22:37	そのあとに、右側の図に、
1:22:40	M7 以上のものを載せていただいでる。
1:22:42	そうしたときに、例えば M3、
1:22:45	の
1:22:46	左の図で M3 の個数、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:22:50	と。
1:22:51	何でしたっけ、GR則でしたっけ。
1:22:54	あれから想定される。
1:22:56	M7 ぐらいの、
1:22:59	予測数みたいなのがもし、
1:23:02	でき、
1:23:02	想定できるんだったら、そういうのと比較しても、十分に
1:23:08	本来だったらM7 クラスで起こるはずなんだけど、全然起こってませんよっていうふうな、何かそういった、
1:23:15	何、できないものなんですかね難しいですかね。
1:23:19	つまり、やっぱりデータが少ない中でそのデータだけに限ったよって。
1:23:25	議論を進めると。
1:23:27	どんんちよっとなつていうちよつと何かしら別の観点も入れた方がいいんじゃないかなって感じがしまして、ちよつとお伺いしました。
1:23:42	はい。中部電力の盛です。ありがとうございます。ちよつと、我々もその事実というかたがこうだということ以上のことはなかなか言うことは難しいのかなとは思っています。で、
1:23:53	GR則もどこかで頭打ちみたいな話もありますし、ちよつと今、どのようにやればいいのかっていうのは思いついてはいないです。ただ 42 ページの方で起きている地震としてどういう、
1:24:07	概況にあるのかっていうのをお示しさせていただいてまして例えば、もう少し詳しく見ていただくと正断層のところ青井 6 は塗っておりますけれども、
1:24:18	南海トラフ、
1:24:20	例えば椎野、日向灘とか、伊豆藤コウに比べて、起こり方の具合としてはそんなに起こっ。
1:24:28	ていない。逆断層タイプ。
1:24:30	の方が起こっていると。で、
1:24:32	伊豆島弧なんかに行くやっぱり正断層の方がどちらかというと多くなつていてというようなそういう場の違いみたいなのが小さなところでは見えているのかなというふうには思っています。ちよつとそういう違いみたいなところの分析はもちろんできるんですけどじゃあどこまで起こるのかっていうところは
1:24:46	なかなか事実としては起こっていないというご事情ちよつと踏み込むのは、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:24:51	難しいのかなというふうを考え
1:24:54	はい。
1:24:55	よく理解はできるんですけども、ただこの領域っていうところ今見てる、 らっしゃると思うんですけども、
1:25:03	先ほどおっしゃったように、正断層タイプも起こってて、
1:25:06	たまたま小さいのがずっと起こってるだけなのか。
1:25:10	うん。このデータに基づいて、既往の、
1:25:14	知見といいますかさっきのようにアルソックみたいなのをを使って、
1:25:18	ガイソウとかしようと考えたときに、もう同じようなことがいえるのかって いうのがちょっと気になってしまいました。
1:25:25	すいませんちょっとコメントに近くなってしまうです
1:25:28	電力浜野でございます。
1:25:30	なかなかその、
1:25:32	次に起きる地震を予測するなんていうのは、学会でもできていない。
1:25:36	ではなかろうかと思って、
1:25:38	おりまして、私たちがここで説明してるのは、
1:25:42	②番というところっていうのは、南海トラフ
1:25:47	で起きる
1:25:49	場合っていうのは、
1:25:51	要は縮形で、
1:25:53	実際、
1:25:55	プレート間地震が起きたときに緩和する方向であろうということについて、44 ページ等で、調査結果に基づいて、
1:26:06	ある断層ってのはやっぱり圧縮型の逆断層が多いですよという、これも 事実として、整理しておりますで、過去、
1:26:17	実際起きてるのはどうかというのを先ほどの 41 ページ等で、やっぱり、
1:26:23	分布とか構造を含めて調査結果としては、逆断層型圧縮型が大半であり、 起きている地震もそうですよということで、
1:26:34	未来予測をそこでしても、何も担保できないんであんまりそこを私たちが、 いや、やってみようがないって言っていたかったはおかしいかもしれ れんすけど、ちょっと、
1:26:46	それを自分たちで何かいえるとは思えないと。
1:26:51	考えます。
1:26:53	ございます。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発音者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:27:00	規制庁鈴木です。多分未来予測をしてくれという趣旨ではうちも言っていないとは思いますが、
1:27:07	一方で、
1:27:09	これがプレート間地震で巨大地震が南海トラフですよ、起こったとしても、
1:27:15	でも他の地震逆断層系の地震なりプレート内地震とかは、
1:27:22	緩和される方向そうで、もし仮にですよ、別に今起こってないので、
1:27:26	我々がここで検討してるデータの中で当然起こってないわけで、それが起こった時に、
1:27:35	これは起こりづらいですよってそのときに、いや言う人達がいるかっていうと、起こりやすくなるか。
1:27:41	というところではないのかもしれない。ちょっとこのあたりの塗りも、
1:27:45	ちょっとどこまで、この今さっき限られたデータ機関としてしょうがないんでないものについて多分用意するなんて不可能な話なんで、そこを別に求めてるわけじゃなくて、
1:27:56	もう今まとめたデータの中でどこまでのことがいえるか。
1:27:59	で、
1:28:00	イマダとコウから緩和される方法になりますというところまでちょっと広域得るものかどうかっていうところで、
1:28:07	多分、何か断定的なことを言おうと考えてるわけじゃないと思うんですけどね。
1:28:13	その辺りは少し、
1:28:16	グループを今回データ出してきたので、それを踏まえて、
1:28:20	前回のですね、ロジックでどうかっていうところは、これは議論のあるところかなと思いますけどね。はい。
1:28:28	よろしいですかね。
1:29:14	はい。
1:29:15	全体とでは、
1:29:17	ちょっと途中でありましたけど、
1:29:20	上羽の資料としてはちょっとそれぞれ途中であったような何ページだったかな所々聞きましたけどちょっと 23 ページだったり 24 ページだったり、
1:29:30	こういうなものもちょっとこのページで、
1:29:32	何を示す必要があるからこういう検討してその結果こういうことが確認できたんで、だから 0 っていう

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:29:39	ちょっとそこら辺がですね、ちょっとわかりにくいというか聞いてみると確かに何かこのページこういう必要性あって、
1:29:47	検討してるんだなっていうのは、聞いてみればわかるんですけど、ちょっとそういうところですね、
1:29:52	安全としないのと、あとは少しな十年間を抽出したのかとか、
1:29:57	何年間、水間佐口の方からもありましたけど、そういうところは、
1:30:00	市全体ですね。
1:30:03	ちょっとページによって何か抽出条件が違うような書きっぷりになってしまってる。
1:30:08	あれっていうふうになるの。
1:30:09	この辺もわかるようにしてください。
1:30:13	そんな話。
1:30:15	はい。
1:30:16	年配として、
1:30:18	松井文ではないのはい。
1:30:22	本院を、
1:30:25	ちょっとすみません 45 ページ泉の方は、結局ここは、
1:30:30	目が人数というか背景が形成メカニズムが違うんで一応ここは最後、
1:30:37	もう、南海トラフのプレート間が起こった後にここの部分について何か関連性というか、
1:30:42	あそこは、
1:30:43	考えなくていいような領域なんですって一応そういう結論にここは持ってる。
1:30:49	ですかねここはちょっとお考えでしょうか。
1:30:56	はい。中部電力の盛です。はい。今、鈴木さんの、
1:31:00	を理解いただいてる通りで、パパがそもそも、南海トラフの沈み込みとはちょっと離れているということと、場自体も、南海トラフトヨダどっちゃって、伊豆
1:31:09	小笠原海溝の沈み込み伴うことですので、構造自体も違うと。形成メカニズム自体も違うということで、関連性としては
1:31:18	あるような構造ではないというふうに考え
1:31:22	はい。で、南海トラフの下盤側の方の小穴、ABCDでいうと、どれなんだっけな。
1:31:29	のところとはまた別。
1:31:31	ですとですね、南海トラフアオキ側の領域とは、明確に切り分けて

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:31:39	ということですねはいはい。
1:31:41	考えとしてはね。はい。
1:32:05	はい。ちょっと全体として分厚い資料ではないので、少しもう少し手直しをいただいてもう一度、
1:32:13	国ごと、
1:32:14	いうことかなと思う。
1:32:16	てますけども、今日が、
1:32:19	全体スケジュールを組むとし、
1:32:22	今日は 24 日かな。
1:32:26	そうそう。
1:32:27	各時間はかからない。何か新しく調べて追加ってことではないので、
1:32:33	ちょっとまた資料の方で少し手直しをいただいて最後、ちょっともう 1 回全体通して確認をするということで、ヒアリングをもう 1 回やろうと思ってますけど。
1:32:42	よろしいですかね。
1:32:43	はい。中部電力天野でございますありがとうございます。特に先ほどの 23 ページのところ、
1:32:49	何が言いたいかわりと書き切れてないものがこの辺りで、50 センチが EB するところ等も、盛が説明したようなところ、読めるようにしっかりしていきたいのと、
1:33:00	2728 辺りの、
1:33:03	広く全体をまず 1 回見渡した上で、期間として 10 年、そしてエリアとして、南海トラフとその周辺領域っていうスクリーニングをしてるっていうのが、ちょっと見にくくて。
1:33:16	全体見て、急に絞っちゃってるもんですからそのステップをちゃんと踏んでますというところの、が読めるように、少し
1:33:26	修正して参りたいと思います。
1:33:29	でき次第、また、ヒアリング申し込みたいと思います。
1:33:36	はい。よろしくお願ひします。よろしければ、以上で、ヒアリングの方ですかね、終了したいと思います。お疲れ様でした。ありがとうございました。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。